

羅臼町家畜排せつ物利用促進計画

令和3年12月
羅臼町

市町村家畜排せつ物利用促進計画

市町村名 羅臼町作成年月 令和3年12月

1 家畜排せつ物の利用の現状

- ・ 羅臼町における家畜排せつ物の発生量は、全農家9戸で12,063トンと推測され、うち畜糞については放牧以外のほぼ全量が、平成17年より稼働しているセンター方式による堆肥化処理施設において堆肥化され、尿についても液肥として全量が経営内利用、地域内で利用されています。
尚、堆肥化処理施設は峯浜地区酪農集落9戸が構成員となり、(有)羅臼堆肥利用組合を設立し運営しています。
- ・ 家畜排せつ物の利用については、堆肥化処理施設において処理を行っていますが、各農家から施設までの運搬及び完熟堆肥の各農家への運搬については(有)羅臼堆肥利用組合で業務を請け負っています。散布については、自己散布を基本としています。
- ・ 堆肥化処理施設では町内で発生した生ゴミについても堆肥化を行っております。

2 家畜排せつ物利用の目標と取り組み

(1) 基本的な取組事項

近年、羅臼町においては、9戸が維持され峯浜地区で酪農を営んでいます。今後数年、離農の予定はありませんが、地域の酪農を守っていくために、新規就農者の確保に努めていくことが課題となっています。平成17年に稼働した堆肥化処理施設は、当時、14戸の農家によって運営されていましたが、離農によって当初計画より堆肥化処理施設に搬入される家畜排せつ物が大幅に減少しています。

このような状況にあっても、安価で良質な生乳生産を目指し、地域と協調したクリーン酪農を進めることにより生産コストの低減と先見性のある資源循環型酪農を確立することが重要課題ととらえ、今後ともセンター方式による堆肥化処理施設の一層の活用が求められているところです。

また、峯浜地区には3河川が根室海峡に流れ、その中にはさけ・ます増殖河川である植別川もあることから、世界自然遺産に登録されている知床の環境を守る上で、羅臼町としても河川環境には細心の注意をはらい家畜排せつ物処理にあたっていきます。

今後の進むべき方向としては、食料の安定的な供給を担いながら、家畜排せつ物のリサイクルを進め、生産コストの低減と労働力の軽減を図り、河川環境への負荷を可能な限り軽減し、併せて健康な家畜による生産を通じて、安全・安心な食品供給を求める消費者に支持される酪農の実現に向けた資源循環型酪農の取り組みを進めていきます。

ア 適切な施肥管理

- ・ 家畜排せつ物については、(有)羅臼堆肥化利用組合が堆肥化処理施設において、微生物の利用を行うとともに、ホイールローダーによる攪拌、切り返しとエアレーション等により堆肥化処理を行っています。家畜排せつ物の処理においては水分調整が重要であることから、各農家から堆肥化施設へ搬入する前には十分な水分調整を行うものとし、施設受け入れ後においても、再度副資材等により水分調整を行い良質堆肥の生産を目指します。

イ 畜産農家の技術向上

- ・ 各農家の家畜排せつ物に対する知識、技術の向上を目的とした研修会等の積極的な参加を促し、各機関から発信される情報についても随時提供し、堆肥の利用技術等の向上に努めます。

ウ 指導体制の強化

- ・ 定期的に関係機関と協力し巡回指導を行い、家畜排せつ物の管理の適正化と適切な堆肥化処理や散布作業などの一層の促進を推進します。

(2) 重点的取組事項

羅臼町では、近年、農家が減少し、家畜排せつ物の排出量も減少しているところですが、家畜排せつ物の処理については量に関わらず、常に適正処理することが望まれ、今後、一層の適正処理に向けた取り組みが必要であり、環境と調和した農業生産活動を進め、地域の環境保全に取り組みます。

ア 重点指導

- ・ 家畜排せつ物を処理する堆肥化処理施設の有効利用について、農家個々の認識を高め良質の堆肥の生産に努めます。
- ・ 河川への環境に配慮し、散布時期や河川沿いの家畜ふん尿の散布について配慮する区域の設定や堆肥の施肥基準などの農村環境の保全に向けた自主的なルールづくりや環境負荷軽減対策を推進します。
- ・ 積雪や土壤凍結などにより春先の河川への流出が懸念される11月以降の堆肥散布を避けるなど自主的な環境配慮ルールづくりを行います。
- ・ 自主的なルール及び堆肥化利用については、積極的に河川流域の住民や漁業者への情報提供を促し、住民理解の促進を図ります。

イ 堆肥センターの機能強化

- ・ 平成17年に稼働した堆肥化処理施設は堆肥センターの機能を有していますが、現在に至るまで関係機関の指導を受け堆肥の品質向上に向け取り組んできました。その結果、当初より品質の向上が見られるようになり、今後も良質な堆肥の生産に努めます。

ウ 臭気対策の推進

- ・ 羅臼町において酪農集落は峯浜地区のみであることから、その他の地区との距離が比較的あるため町内全体に悪臭が漂うことはありませんが、峯浜地区の海岸線では風向きによって悪臭が発生することもあります。
このため、散布時における気象状況の配慮や、散布方法の改善など努め、また、様々な臭気軽減対策の取組み事例を収集し、農家への情報提供を通じ、臭気に対する農家意識の向上と臭気対策の取組を促進し、町内における家畜ふん尿の臭気低減を図り、快適な農村社会の形成に努めます。

エ 放牧の推進

- ・ 放牧の導入による家畜ふん尿の減量化に向けた取組みを推進します。
- ・ 集約放牧技術等の普及に努め、放牧草地の草生管理や周辺環境に配慮した適正な放牧利用を推進します。

3 その他の事項